

四代田ノ浦海岸での無法な行為を許すまじ

上関町四代田ノ浦に集結しているシーカヤッカーたちと、彼らを操っている祝島の町会議員、そして自己満足のために集まる町外の反対派の人たちに告げたいことがあります。

それは、一刻も早く自らの行動が違法であることに気付き、良識を取り戻すべきだということです。

たとえば彼らの考え方に一分の理があるとしても、彼らの行動は一般的な社会良識や礼節、法的秩序というものを完全に見失っています。建設予定地のゲートに外から針金を巻いて、作業員を海岸に出られなくしたり、排水路に土のうを詰め込んで、排水を妨げるなど、とても真つ当な社会人のすることではありません。

「田ノ浦が埋め立てられると祝島は生活できなくなる」などと主張する一部の祝島島民、原電に反対するために町外から移住してきた環境保護主義者。彼ら以外の町内の反対派住民が、田ノ浦での妨害行動に参加しないのはなぜでしょうか。それは原電を容認するしないではなく、社会良識や法的秩序というものについて正しい判断をしているからではないでしょうか。

全国から集まる反対派は、これまでの上関原電をめぐる経緯や推進町民の思いなど考えもしない人たちです。上関町の将来に何の責任も持たない町外の人たちによって、私たちの念願の町づくりが潰れることのないよう、力を合わせていきましょう。

町外から来た反対者を先導して、 多くの町民を苦しめる祝島の町会議員

中電の海域工事が祝島反対派らの漁船により妨害されていた十月十八日、当協議会の会員二名が四代沖の現場海域へ向かいました。

現場では、祝島在住の町会議員が、町外から来たシーカヤッカーとともに、自分の船から中電の作業船にもやいをとって、作業船の航行を妨害しており、同議員に対し、このような無法な行為は止めるよう強く抗議しました。

しかし、同議員は、「町民との争いは避けたい」と、口では繰り返しながら、一向に妨害を止めようとはしませんでした。

シーカヤッカーら、町外の反対者を先導しているのも、この議員です。

町外の反対者が、働きもせず、来る日も来る日も、一年以上にわたって田ノ浦海岸に居座り、妨害を続けていられるのは、この議員らが、食事を与え、寝る場所を与え、自分たちが良いことをしているとという大きな誤解を反対者に与えているからにはなりません。



工事を妨害する議員に抗議する町連協会員

このまま私たちが黙っていたら、この先も町外の反対者は居座り続けるでしょう。さらには、入れ替わり立ち替わり、もっとたくさんの得体の知れない人たちがやってくるようになるでしょう。

そうしないためには、多くの町民が、祝島の議員に、「もうこれ以上、よそ者を巻き込むのは止めてくれ」と訴えるしかありません。本当に「町民との争いは避けたい」と思っているのなら、そうした町民の声を無視することはできないはずです。人づてでも構いませんし、ご近所で話をして、こうした事実を知らない人に伝えることも大切です。みんなで訴えていきましょう。